

# 令和5年度 学校評価書

山形県立村山特別支援学校

学校教育目標 すすんで学び、よりよく生きる人を育てる めざす子ども 心も体も元気な子ども 生活する力のある子ども 自分の思いや気持ちを伝える子ども

教育方針 (1) 一人一人が今もっている力や特性を的確に把握し、また本人や保護者の思いや願いを踏まえ、育てたい力(育成すべき資質能力)を整理します。  
 (2) 必要な知識や技能、思考力、判断力、表現力などを、子どもたちが受け身ではなく主体的にすすんで学び身に付ける日々の授業を展開していきます。  
 (3) 卒業後の生活の中で、暮らすことや働くこと、余暇を楽しむことなどを通して、生涯にわたってよりよく生きることができるよう人を育てていきます。

【評価】 「達成度」 A：達成できた(8割以上) B：ほぼ達成できた(6～7割) C：あまり達成できなかった(4～5割) D：達成できなかった(3割以下)  
 保護者、教員アンケートによる評価<A～Dの4段階評価の内、AとB合計の割合> 達成できた(8割以上) ほぼ達成できた(6～7割) あまり達成できなかった(4～5割) 達成できなかった(3割以下)  
 (教) 教務部 (総) 総務部 (学) 学習研修部 (生) 生徒部 (保) 保健体育部 (進) 進路部 (研) 研究部 (相) 相談部 (情) 情報部 (小) 小学部 (中) 中学部 (高) 高等部

## 今年度の重点 I 安心・安全な学校

項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題(●)及び改善策(○)
① 登下校・授業中の安全 (小、中、高、生、保)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登下校時における駐車場での安全確保(特に小学部児童について)</li> <li>・保護者へお便りなどで注意喚起するとともに、該当児童にも繰り返し話をしている。(教)</li> <li>○緊急連絡先一覧作成期日について</li> <li>・5月中を目処に完成させる。提出の遅れている家庭、学級等へ催促するとともに、期日を設けて途中段階でもファイリングする。(生)</li> <li>○校内での事故・ケガの防止</li> <li>・迅速かつ適切な教員の対応と防止策として鍵の工夫。(教)</li> <li>・ガラスの破損や飛び出し等の児童生徒の行動を予測しながらかわる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登校時は毎日職員が送迎者の誘導に当たり、出入口付近についても機会を見て立哨・誘導し注意喚起に努めた。</li> <li>○通学指導の課題点を単独通学生会等で指導し、点検したことで、安全な歩行や自転車通学について効果的に指導できた。</li> <li>○緊急連絡先一覧の作成について、保護者からの提出や作成事務に課題があった。</li> <li>○熱中症予防の対策を強化としてプール用の冷却セット・熱中症計の追加購入、経口補水液等の物品整備をした。暑さ指数による活動目安を明確にし、学習内容を変更する等熱中症予防に努めた。</li> <li>○車いす使用児童生徒の避難ルートを他の生徒と別にすることで、早く安全に避難できた。</li> <li>○12月にサーバーの交換(ELECOMHDD1 e ifsmuratoku3)を完了し、データ管理やバックアップの安全性を高めることができた。</li> <li>○3校共通サーバーになった。</li> <li>○校務用PC28台の交換作業、滞りなく進めることができた。</li> </ul>	A 保護者1 保護者4 教員1 教員2 教員4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●単独通学の安全</li> <li>・保険加入やヘルメット着用など、近年の法律や条例の改正を踏まえて自転車利用のきまりや点検項目を整理する。</li> <li>●緊急連絡先一覧の作成について</li> <li>・年度初めの様々な書類の提出期限を揃え、昨年度からの変更点を訂正して提出することで家庭・学校双方の負担が軽減する。</li> <li>●プール学習時の暑さ対策、熱中症予防等について</li> <li>・来年度の「二校プール管理委員会」でサンダル使用、雷発生時中止判断基準、暑さによる中止の基準等について検討する。</li> <li>・プール使用期間について(本校で再検討)</li> <li>●ヒヤリハット・事故報告の周知について</li> <li>・内容によって掲示のみならず、また終礼(金曜日)を待たずに早急に注意喚起する。またG-mailで全体に早急に周知する。</li> <li>●NASの容量が逼迫している。700M/1G)半分を超えている。</li> <li>・NASのデータを新サーバーへ移行する。</li> </ul>
② 新型コロナウイルス感染症対策を講じた学習環境 (小、中、高、教、学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マスクの正しい着用について</li> <li>・定期的にマスク着用の言葉掛けや練習。素材や着用について家庭と連携。学年合同の学習時はマスク着用や児童間の距離を取ることを継続。(小)</li> <li>・正しいマスクの付け方、衛生・保健学習を定期的に設定(中)</li> <li>○感染症対策の徹底</li> <li>・今後もいろいろな場面で保護者の理解と協力を得る。(教)</li> <li>○学級閉鎖・学年閉鎖時の学習保障</li> <li>・学校と各家庭をオンラインでつないで学習できる準備を整えておく。</li> <li>・年度初めに各家庭のインターネット環境の確認やオンライン学習についての周知。他校の実践例を収集。管理職、教務部との連携。(情)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手洗いが苦手だった生徒が、給食配膳の手伝いをするようになってからしっかり洗うようになった。</li> </ul> <p>&lt;コロナ5類移行後の学習状況について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図書貸出し再開により、多くの児童生徒が図書室を利用できた。</li> <li>○専門委員会では、活動内容や場所を検討し、学部ごとに活動場所を分けたことで集中して取り組めた。小学部高学年の児童は、中高等部生との活動を楽しみにし、模範にて取り組めた。</li> <li>○なかよし広場では、回数を重ねるごとに学部の枠を越えてかわる姿が見られるようになった。</li> <li>○むらとくまつりでは、実行委員が無理なく進行等に取り組むことができるように役割分担を調整した。児童生徒は達成感を得て、自信をもつことができた。</li> </ul>	A 保護者1 教員5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒会活動(なかよし広場、専門委員会、児童生徒会総会)について、来年度に向けて以下の内容を検討する。</li> <li>・実施方法について</li> <li>・来年度は児童生徒数の大幅増により、今年度の専門委員会のもち方では活動場所が確保できない。検討し方針を決めて引き継ぎたい。</li> <li>・専門委員会の回数が多く教員の負担感が大きい。必要十分な回数を設定する。また、できるだけ全員参加でき、各専門委員会で活動を組みやすい時期にするなど実施日を調整する。</li> <li>・リサイクル委員会は空き缶潰し、牛乳パックの裁断をしたが、保管場所がないこと、事業所が回収に來られなくなったことなどから、内容の見直しをする。</li> <li>・児童生徒会総会のもち方・回数について検討する。</li> </ul>
③ 家庭や関係機関と連携した心と体の健やかな育成 (保、生、相、小、中、高)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活リズムが整わない、登校時間が守れない生徒への対応</li> <li>・今後の生活(進路指導)についても触れながら、生活リズムを整える必要性を家庭と共有し協力を得る。(中)</li> <li>○感情や行動調整に課題、飛び出しのある生徒の指導</li> <li>・生徒の気持ちに寄り添いながら、適切な行動や言動を繰り返し伝える。視覚支援の活用や環境の調整など有効な支援を探る。ケース会を活用し指導方針等を確認して指導する。(中)</li> <li>○生活リズムの改善に向けた家庭との連携</li> <li>・現場実習や卒後の生活に関連する学習を機に、継続的な支援が必要な課題につい</li> </ul>	<p>&lt;生活指導等に係る学校と家庭との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学年間で共通理解を図り、一貫した指導を心掛けた。生徒の伸びや課題を多面的に捉えたところ、様々な場面で個々の成長があった。家庭とも連絡をとり歩調を合わせて対応できた。(高)</li> <li>○生活ノートに起床・就寝時刻欄を設け、生徒本人も生活習慣を意識できるようにした。家庭へのアプローチもしやすくなった。(高)</li> <li>○教師が生徒の気持ちを推察し、行動理由を言語化して一緒に整理し会話する場面を意図的に設定することで、自分の気持ちや状況を言葉で表現したり行動を振り返ったりし、気持ちを切り替えるまでの時間が短くなった。(中)</li> <li>○性に関する学習の授業実践が各学部で計画的に進められ、お便りを発行できた。(保)</li> </ul>	A 保護者7 保護者8 教員3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●気持ちや要求を伝える手段が身につけていない児童への指導</li> <li>・実態に応じた手段の獲得に向けて教材や手立てを探っていく。</li> <li>●感情のコントロールの仕方、意思伝達、適切なかわり方や行動などに課題のある児童への指導</li> <li>・落ち着ける方法を探りながら個に応じ、適切な行動や話し方、距離感などその都度指導する。苦手なことにもスモールステップで繰り返し取り組み、自信につなげる。</li> <li>●相手との距離が近い生徒、感情や行動の調整に課題がある、飛び出しのある生徒への指導(中)</li> <li>・生徒への気持ちに寄り添いながら、適切な行動や言動を繰り返し伝える。視覚支援の活用、環境調整、ケース会の活用により指導方針を確認。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>て家庭と連携して指導に当たる。(高)</li> <li>○他者との望ましいかかわり方の継続指導</li> <li>・学習場面で望ましいかかわり方のモデルを示す。友達の個性や特性を認め合える集団づくりを目指す(高)</li> <li>○肥満傾向児童の運動機会の確保</li> <li>・元気ジムの活用、教室内でできること、校内散歩等工夫し運動量を増やす(小)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年学級での取組(朝ランニング、体育、昼休みのプレイルームでの活動やラジオ体操・C棟階段を使用した運動・運動 動画の運動・ダンスをまねること)や散歩などが意欲的に体を動かすこと、体力作りにつながった。(小)</li> <li>○保健体育の授業時間のほかに、昼休み等を中心に外で活動できた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●肥満解消の効果的に取組について</li> <li>・学校教育活動全般で運動量の不足を感じる。体育館、運動場の使用機会を増やせないか。</li> <li>●運動量確保について(中)</li> <li>・保健体育の年間指導計画の工夫。火、木の午後の生単の活用。</li> </ul>
④ 働き方改革の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感染症関係による相談担当者の変更への対応</li> <li>・就学に係る教育支援相談の受け入れ数を1日1件とし、担当人数に余裕をもって対応する。(相)</li> <li>○ICT活用による業務改善</li> <li>・行事等反省はGoogleのフォームズを活用し、ペーパーレス、業務削減につなげる。</li> <li>・情報部、教務部、学習研修部などと連携して取り組む。(情)</li> <li>○休憩時間における通学指導等に伴う休憩時間等の確保(生)</li> <li>・年度当初に全体に対して周知(一斉休憩時間外で個別休憩可)</li> <li>○会計処理の負担軽減(処理方法、期日指定処理の際の慌ただしさ等への考慮)(小)</li> <li>○全国大会にむけた校内組織の改善と工夫</li> <li>・全国大会授業者の負担は多くなる。校内組織の見直し、軽減できる仕事を明らかにできるとよいのではないか。(研)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育支援相談の時間が、小学部の下校時刻と近く、準備等ができなかったり相談開始時刻に間に合わなかったりすることがあった。</li> </ul> <p>&lt;ICT活用による業務改善&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○共有ドライブの活用(個別の～マニュアル、駐車場関連)、Gメールの活用(月予定、週予定、駐車場関連、諸連絡)により、いつでもどこでも確認できるようにすることができた。</li> <li>○Googleのフォームズの活用研修を行ったことで、行事等の反省に活用できた。ペーパーレス、業務削減につながった。</li> <li>○情報便りをGG(グーグルグループ)で定期的に発信し、フォームズやアプリの活用法を紹介した。</li> <li>○今年度、総務部員が中学部、高等部とも2名ずつになり、専門部長の保護者とのやり取りや、専門部事業をサポートする際に動きやすくなった</li> <li>○学校生活アンケートの回答状況を担任が学級分を記入したことで、各学部一覧として把握が容易になり、生徒部の集計作業の負担が軽減した。</li> </ul>	A 保護者9 教員14 教員15 教員16	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育支援相談について</li> <li>・来年度は、相談開始時刻を14:40～に設定する。(今年度は14:20～)</li> <li>●保体部長が保健主事を兼ねているため負担である。</li> <li>・体育関係業務を中心に行う主任を置いてはどうか。業務として運動会やプール学習について学部間で共通理解するため中心となって動く。また、必要であれば教科についての話し合いをもつ等。(部員も学部二人など少ないため)</li> <li>●来年度、生徒数増に伴い実習や就労に向けての事務量が予想される。</li> <li>・進路部長と進路指導主事の両者に業務を分担する。</li> </ul>

今年度の重点 II 一人一人に応じた指導・支援の充実

項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題及び改善策
① 個別の指導計画の活用による児童生徒が身に付ける力を明確にした指導の充実(教、学、小、中、高)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナ感染拡大影響による経験不足</li> <li>・不足している体験や経験を整理し、映像の活用・校内での体験学習等のやり方を工夫する。(小)</li> <li>○重複在籍児童の実態差に応じた指導体制</li> <li>・学習ねらいに沿ってグルーピング(小)</li> <li>○感情のコントロール、意思伝達、適切なかかわり方への指導の工夫と充実</li> <li>・落ち着ける方法を探りながら個に応じた対応をする。適切な行動や話し方、距離感などその都度指導する。苦手なことにもスモールステップで繰り返し取り組み自信につなげる。(小)</li> <li>・学年会で児童理解の時間を取り、学年担任間で共通理解し支援していく。(小)</li> <li>○国語、数学等の指導内容と方法・教材の共有化</li> <li>・作った教材を共有ドライブに挙げ、動画教材や編集教材を共有する、学習プリント類を分類して保管する等。(中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な集団で学習する機会が増え、体験を通してコミュニケーション面や学習態度面での伸びがみられた。(小)</li> <li>○繰り返しの学習・調理活動・修学旅行や宿泊学習を通し、見通しを持ってできることや生活力が向上した。(小)</li> <li>○国語・算数でグループ分けや実態に応じた教材の工夫で分かることやできることが増えた。(小)</li> <li>○学年合同の学習が増え、児童同士のかかわりや他児童の影響を受け学習意欲が増すなど自主性が高まったり、気持ちの切り替えがうまくなったりした。(小)</li> <li>○学年単位の生単や音楽や体育などの学習を通して、お互いの良いところを見付けたり、グループやクラスごとに協力したりするなど、仲間としての意識が育ってきた。相手の話を聞く態度が身に付いてきた。(高)</li> <li>○心を育む学校給食週間では、掲示物を工夫したりクイズを実施したりすることで、児童生徒がテーマに関心をもったり意欲的に食材を食べたりする姿が見られた。セレクトメニューもよかった。</li> <li>○適切な教員配置や適切な方法を伝え見守る指導を通して、身辺自立面での伸びがたくさんみられた。(小)</li> </ul>	A 保護者3 教員6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重複障がい学級の実態に合わせた教育課程の変更について</li> <li>・小学部重複障がい学級において、国語・算数を時間割に組み入れ、二つの教育課程を設定する。</li> <li>●児童生徒端末や指導者端末等、ICT利活用に向けた教科・領域等における指導の充実、運用方法について</li> <li>・「アフターGIGA」に向けて、教職員一人一人のITリテラシーを高めるための研修やサポートの整備に努めていく。</li> </ul>
② 一人一人のニーズに合わせた進路指導・就労支援の充実(進)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分から挨拶、必要場面での報告や適切な言葉遣いの指導</li> <li>・教師が手本を示しながら、場を捉えた指導を繰り返す。相手を意識できるような働き掛けをしていく。(中)</li> <li>○コロナの影響下での実習日数の確保</li> <li>・高等部の現場実習と中学部の就労体験学習共に予備日を設け、全員が実施できるように計画する。(進)</li> <li>○進路に関する情報提供の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○後期現場実習では、十分な時間を確保し内容の濃い事前学習ができた。進路指導主事や就労支援コーディネーターの協力もあり、貴重な経験となる実習になった。(高)</li> <li>○後期現場実習を通して、社会人としての心身の整え方を学んだ。事業所からの具体的なアドバイスをもとに、適切なかかわり方について考えたり実践したりすることができた。(高)</li> <li>○産業現場等における実習</li> <li>・反省会のもち方を教員間で確認し、事業所の方から率直な成果と課題を貰い、本人保護者と共有することができた。</li> <li>・高等部と事業所の情報や学習の目的、個票の書き方等を共有しながら進められた。来年度以降も継続したい。</li> <li>○進路だよりの発行計画</li> </ul>	A 保護者 教員7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●不登校傾向の生徒や保護者への対応について</li> <li>・学年、学部、相談部との情報共有と組織的な視点での検討</li> <li>●適切な進路選択に向けての方策について</li> <li>・生徒・保護者への実習生個票の開示や共有をとおして、適切な進路選択につなげる。</li> <li>●場に応じた言葉遣い、相手との距離の取り方の指導について</li> <li>・適切な言葉遣いや振る舞い方、距離感の取り方などを、生徒と一緒に考える場面を設定し指導を継続する。</li> <li>●教職員の事業所見学について</li> <li>・夏季休業中の教員向け事業所見学について検討する。</li> <li>●中学部校内実習について</li> <li>・生徒数増に伴い、実習内容や活動できる教室を増やす。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談時の学部ごとの掲示物や資料提供の工夫はできたが、引き続きニーズを把握し、充実をしていく。また、必要に応じて職員向けの研修等も実施する。(進)</li> <li>進路だよりに学部のコーナーを作り、事業所紹介など学部のニーズに合わせた情報を発信する機会を設ける。(進)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度からキャリア教育の実践紹介を学部に応じ情報発信ができた。また、写真付きで目に留まりやすく、小学部段階から進めていく事として保護者に伝える良い機会となっている。</li> <li>○福祉事業所等販売の業者対応</li> <li>各事業所月1回訪問販売を実施したことで、定期的に事業所の方々とかわる機会ができた。また、利用者が訪問販売していることで、児童生徒の将来の姿を想像するきっかけとなった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア教育全体計画・学部ごとのチェックリスト・進路の手引の配付する時期・活用について。</li> <li>今年度は4月の面談時に配付したが、十分に確認することは難しかったため、1月の面談時に再度見合い、伸びや課題、来年度の取組などを確認する。</li> <li>●今後の同窓会のもち方について。</li> <li>同窓会に関する業務について精選する。来年度は同窓会総会を実施する予定。総会でアンケート結果内容を参考に、連絡手段や同窓会の回数等について見直す。</li> </ul>
③ 教員の専門性向上 (相、学、研、小、中、高)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校研究・第62回全国学校体育研究大会山形大会の取組</li> <li>○ケース会議・連携会議における取組</li> <li>○外部専門家配置事業における取組</li> <li>○山形市小中教育研究会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員が大会に向けて授業づくりに関わることができた。その結果、研究内容や授業について十分理解を深めながら、効果的な授業づくりに迫ることができた。</li> <li>学部を超えて学部研等を実施することができ、系統性のある視点から授業づくりを深める話し合いにつなげることができた。</li> <li>提案授業について、学部で話し合いや準備、協議したことで、授業の作り方や児童生徒の学びの形など、日々の実践に生かせるポイントを得ることができた。</li> <li>○校内ケース会を毎月の設定日と計画について連絡したことで、困ったときに相談しやすいシステムとして根付いてきた。複数の関係者で行い、指導の方向性が見えたり悩みが軽くなったりして、子どもの変容にもつながっている。</li> <li>○小学部6年、中学部3年の児童生徒の連携会議、ケース会等の記録を中学部や高等部にも回覧し情報共有できた。</li> <li>○外部専門家配置事業では、児童生徒への支援について助言を貰い支援の参考にできた。児童の運動動作面や精神的な安定など成果がみられている。</li> <li>○山形市小中教育研究会については、参集型の研修会が再開され、各自が所属部会の研修に参加し、研修を深めることができた。</li> </ul>	A 保護者3 教員8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員の専門性向上のための研修の充実について</li> <li>外部研修会への参加について、学部学年内で調整し、オンライン研修等に積極的に参加できるように計画する。</li> <li>●今年度、講師の都合と学校の日程が合わず、専門性向上のための研修会を計画・実施できなかった。</li> <li>年度初めに研修計画を立て実施できるようにする。</li> </ul>
今年度の重点 III 楽しく充実感のある授業の改善				
項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題及び改善策
① 豊かなスポーツライフのための授業創造 (研、小、中、高)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生涯のスポーツライフの具現化</li> <li>卒後の生活を意識した授業の工夫、多様ななかかわり方の視点を取り入れた一層の授業改善(研)</li> <li>○保健領域の取り扱い</li> <li>年間指導計画等の整理・改善(研)</li> <li>○運動の機会と運動量の確保</li> <li>次年度、昼休みに体育館が使用できるならば、できる限り昼休みの時間など運動する機会を設けていく。(研)</li> <li>○Google Workspaceを使った学習への取組</li> <li>共有ドライブ(全体、各学部)の活用を推進していく。同時に活用法のマニュアルも提示していく。(情)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実践研で大会方式の風船バレーボールに取り組んだ。大会の運営全体に取り組んだことで生徒の学習意欲が高まり、「勝ちたい・楽しい・もっとやりたい」などの積極的な気持ちで運動に取り組むことができた。(高)</li> <li>○4視点を設け、題材や授業の組み方、ICTの活用方法など授業づくりを多面的に考えた。その結果、児童や生徒は多様な関わり方を通じて、これまで以上に体育の授業を楽しむようになり将来の豊かなスポーツライフを支える資質・能力の習得につながった。</li> <li>○バレーボールやパラスポーツ、よさこいソーランの歴史や文化などの学習を充実させたことで、技能の高まりにつながった。文化的な映像資料やプロスポーツ動画の鑑賞を通して、運動を「する」以外で楽しむ経験につなげることができた。(高)</li> <li>○学級や学年ごとにタブレットを活用し、ラジオ体操第1～第3、ヨガ、ストレッチ、流行の曲に乗せたエクササイズ、よさこいソーランや自分たちで動きを考えたオリジナル体操などに取り組むことができた。</li> <li>○むらとく公式YouTubeの活用(ダンス動画を講師の先生へ限定配信)、Google classroomを活用しての生徒への課題提示(中学部)ができて効果的だった。</li> </ul>	A 保護者3 教員9 教員11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●卒後の豊かなスポーツライフの実現を目指す具体的取組(高)</li> <li>生活に根差した保健体育学習内容の検討、取り組みの継続</li> <li>朝運動の内容や取組の充実・工夫</li> <li>●研究成果を踏まえた日々の授業づくりへの活用について</li> <li>実践集録の活用及び体育教材等の活用の周知をする。</li> <li>今年度の研究成果や課題を生かし、教職員の意見を踏まえ研究内容や方法等の検討と提案をする。</li> </ul>
② 外部資源の協力要請、活用 (情、学、小、中、高)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交流及び共同学習を通して児童生徒の社会参加と自立を目指す取組</li> <li>新型コロナウイルス感染症防止対策をとりながら、直接交流や体験学習を進める。</li> <li>○学校関係者や地域の方々に本校教育へ理解を図る取組</li> <li>新型コロナウイルス感染症防止対策をとりながら、参集型の学校公開を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手校の協力により、居住地校交流(5名)を実施できた。</li> <li>○4年ぶりに南山形地区文化祭に参加した。学校紹介、よさこいソーランの披露、作業製品展示をすることができた。</li> <li>○学校公開・説明会について</li> <li>年長と小6対象の学校見学会では、多数の参加者の希望・参加があり、改めてニーズが高いことを確認できた。</li> <li>入学者選考に係る高等部の見学については欠席者の対応として代替日程の設定をあらかじめ決めておくとうよかった。</li> <li>学校公開(9月)を4年ぶりに計画に沿って実施できた。授業参観を二手に分けるなど工夫しながら実施できた。</li> <li>○校外バザーの実施</li> <li>中学部は霞城セントラルアトリウムにて、高等部はイオンモール山形南店において2月に実施。</li> </ul>	A 保護者5 保護者6 教員10 教員12 教員13	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居住地校交流の継続</li> <li>希望に沿ってできるように関係者の理解と協力を得ながら進める。</li> <li>●地域交流等の再開と継続</li> <li>生徒数増により交流方法等の工夫が必要。</li> <li>●学校公開等の実施</li> <li>時期については今年度同様、日程調整など工夫が必要。</li> <li>●校外バザー(中・高)の実施</li> <li>集客と売り場の広さ等の点からバザー会場の見直しをする。</li> </ul>

<学校評議員より>

- 小学部保護者の意見から、小学部のうちから進路への意識が高いことがうかがえた。大変良いことである。
- 学校と福祉事業所は児童生徒の日中の活動場である。情報を共有することは大切である。
- 令和6年度も南山形地区文化祭を10月第4週の土日に予定している。ぜひ参加してほしい。

- ・ ICT 活用による教員の働き方改革が進んでいるようだ。機器管理や普及の面で担当者の苦勞もあると思うがぜひ推進してほしい。